

2016年6月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。公共投資は下げ止まっていますが、個人消費が依然盛り上がりや欠けています。一方、雇用環境は改善傾向が続いています。観光は一部にやや弱めの動きもみられますが、外国人客の入込みを中心に堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、5月は前年比▲1.8%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。もっとも、各店一様に減少している訳ではなく、売上を伸ばしている先もあります。
- 5月の新車登録台数は、前年比▲7.2%でした。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は前年比▲6.9%、「軽自動車」は同▲7.7%とともに前年を下回りました。「軽自動車」は、4月に16か月振りにマイナスから脱出したのですが、再びマイナスとなりました。燃費データ不正事件の影響が出ているようです。「除く軽自動車」については、一部部品メーカーでの事故や震災の影響もあるようですが、イベントなどの来客動向は決して悪くはなく、地合いはしっかりしているとの声が聞かれています。

■観光の動向

- 5月の市内のホテルの稼働率は、77.9%と昨年10月以来7か月ぶりに前年実績(75.8%)を上回りました。もっとも、ホテル間の競争が増してい

るうえ、GWが雨天で客足が伸びなかったこともあって、苦戦したホテルもあるようです。

5月の各地観光は、旭山動物園が前年比▲12.8%、層雲峡地区が同▲5.2%でしたが、ウトロ温泉は同+11.3%、博物館網走監獄は同+9.2%、利尻・礼文フェリーは同+5.7%でした。

空港旅客数は、道北4空港合計で前年比+2.7%（旭川空港は同+2.1%）でした。国際線利用客数は同+8.0%でした。

中国や台湾をはじめとする外国人客も、一頃ほどの勢いはないものの、引き続き伸びているとのことですので、観光は堅調を維持しているものと判断しました。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、ボリューム的に出始めています（301億円）。宗谷が前年を下回った（前年比▲50.7%）ものの、上川（同+54.0%）、オホーツク（同+18.8%）が増加したため、全体では同+21.5%の大幅増加でした。4～5月の累計でも、同+5.7%と前年実績を上回っていますので、これまで減少傾向にあった公共投資は、下げ止まっているとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引き続きタイトであることを示しています。4月の有効求人倍率は、旭川が0.97倍（前年0.90倍）、稚内が0.92倍（同0.81倍）、北見が0.88倍（同0.88倍）、網走が0.87倍（同0.81倍）となっており、引き続き高水準で推移しています。新規求人数も、旭川では、前年比+9.6%と7か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- わが国全体の景気は、「新興国経済の減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては緩やかな回復を続けている」状況です。当地経済は、輸出産業が少ない分、新興国経済の減速や円高の直接の影響は少ないと思われます。個人消費がぱっとしないほか、設備投資の動きも少ないため、足許の景気の動きにあまり大きな変化はないとみています。ただ、公共投資に動きが出てきたことはプラス材料だと思います。観光についても、本格的な観光シーズンを迎える中、中国や台湾をはじめとする外国人観光客の動向に注目したいと思っています。7月1日に短観を公表しますが、年明け後の円高や株安により、世の中全体で先行き見通しがやや慎重化している中であって、当地企業の皆さんが足許の景気をどのようにみているのかに注目しています。
- また、建築物着工床面積（非居住用）と新設住宅着工戸数の数字が足許前年比プラスになっています。これが統計上の振れなのか、設備投資や住宅投資が基調的に上向いていることの反映なのかについても注目していきたいと考えています。

以 上